

平成29年7月17日



日立理科クラブ

No. 106

日立理科クラブ通信

田尻小学校・あそびのプログラム

理科おもしろ実験教室

7月14日(木)、田尻小学校の放課後子供教室と児童クラブの子どもたちを対象にした「理科おもしろ実験教室」の内容を紹介します。この事業は、生涯学習課・ひたち親子の広場・日立理科クラブの三者による「あそびのプログラム」の活動です。



指導員は日立理科クラブ8名、ひたち親子の広場10名、生涯学習課2名、対象児童は、放課後子供教室30名、児童クラブ42名の1年生から6年生までの子どもたちです。2つの理科室を使って行われました。理科室の机の上に実験教具が並べられ、8つの班に分かれた児童たちは、約5分刻みで8つの実験に挑戦しました。

第1ブース 空気のカ…①空気砲、煙実験 ②空気砲でペットボトル倒し

第2ブース 磁石の不思議な力…①磁石鬼ごっこ ②磁石を集めよう

第3ブース 磁石の力を見てみよう…①磁力線カラーバインド、磁石くだもの回転、私の手はゴリラの手 ②磁石車カーレース

第4ブース 音、光の不思議…①自分の声を見てみよう、音階パイプ、糸電話、針金電話、バネ電話 ②光の不思議、万華鏡、色コマ、CDで虹を見よう、偏光板



一斉にスタート、大きな歓声や笑い声、不思議そうな顔をして真剣に取り組んでいる表情、どうしてなのかなーと何度も行っている子どもたち、

遊びいっぱいの中から、実験の仕組みはわからなくても、何か不思議な現象や面白い様子に、仲間同士で興じている光景があちこちに見えます。空気砲では、煙を入れて段ボールを叩きます。指導員から、「三角の穴なのに、煙は丸くなるね。どうしてかな…」ちょっとした質問に、子どもたちは、真剣に考えます。答えが出せなくても、不思議さを感じる事がとても大切です。本日の活動で使われた教具は、理科の授業で活用している内容の物ばかりです。指導員さんたちは、原理の説明より、実際に触れて遊んでいる中から、発達段階に応じて子どもたちが感じる手応えを大切にしたいと考えています。何よりも、子どもたちが夢中になっている姿が一番の収穫ではないでしょうか。



放課後の理科室、子どもたちの歓声がいつまでも鳴り響きました。

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一
日立理科クラブ事務所 Tel/FAX 0294-24-3104